

「青い目の人形」と「ミス岐阜」人形交流の歴史

魚次 龍雄

「青い目の人形」が岐阜にやってきた

皆さん、こんにちは。魚次と申します。今日7月9日は、実は1945年の「岐阜空襲の日」です。岐阜では、今日の午前9時には岐阜市内のお寺の鐘が全部鳴ります。私自身も、そういう地元の平和の活動にも関わっておりまして、今日はそれを済ませてからこちらに来ました。私は、元々は中学校の教師です。私の教師としての一つのポリシーがありまして、それは「子どもたちを戦争に送らない」ということで、そういう平和のための活動なら何でもということ、これまで色々なことに関わってきました。学校の方は3年前に退職しまして、今はフリーで過ごしております。本日の内容はお手元のレジメ（本報告書では31～34頁に掲載）にそって話していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

青い目の人形や答礼人形の全体の話については、青木さんのお話もありましたし、皆さんもうご存知なことで、私から詳しく申しあげることにはしませんけれども、レジメにも簡単にまとめてありますので、これを見て参考にさせていただければと思います。

さて、まず岐阜にも青い目の人形がやって来たというところからお話をします。1927年、岐阜県には、235体の青い目の人形がアメリカからやって参りました。まず岐阜県商品陳列所というところで、ここで人形たちを2日間展示した後に、県内各地に分けられるということがありました。その時に撮られた写真が、レジメの最初のページにある写真です。後ろにお雛様がありますが、これが実は、商品陳列所で人形たちが展示されている時の写真と同じものだったので、この写真もその場所で写されたということがわかりました。写真の右の手前の方が、人形交流の岐阜の中心になりました明德小学校の児童の方です。その子が青い目の人形を持っています。但し、ここにある人形3体とも残念ながら今はございません。本当に当時は沢山の方が人形を見に行つたということだと伺っています。

答礼人形「ミス岐阜」の誕生

青い目の人形が来たことを受けて、今度は、答礼人形「ミス岐阜」をアメリカに贈ろうという事があったんですけども、やはり、1927年というのは、昭和恐慌の時に、本当に皆さんが貧しく、当時の子ども一人1銭の募金というのは、やはり大変だったと思います。それでも、それぞれの人たちが集めて、岐阜県では667円あまりのお金を集めて人形の製作に充てることができました。お金を集めた学校には、「ミス岐阜」の写真が贈られたという事です。

アメリカに行った「ミス岐阜」は、全米を巡回する中で、色々と現地の人にも可愛がられ、最終的にはオハイオ州クリーブランド市の図書館に保管されたということが記録に残っております。きちんとした図書館に保管されたのは、アメリカの子どもたちに見てほしいということが大きな理由ではなかったかと思っております。但し、今、クリーブランドの図書館には、「ミス岐阜」はありません。そのいきさつについて後ほどご紹介いたします。

さて、日本にやってきた青い目の人形は、大変可愛がられました。「ミス岐阜」里帰りの時に、

人形が贈られた学校を調査しました。その時に、教育委員会が調査するのでは面白くないと思って、岐阜県の日米協会を柱にして、各学校に調査をしたところ、沢山の事例の報告を受けました。それをまとめて、里帰りする時の資料として冊子を作りました。この冊子の中に各学校の様子が書かれています。

どの学校でも青い目の人形の歓迎をして、写真を撮っています。当時では珍しい青い目の人形と言う事で、各地で大歓迎されたことが分かっています。この写真は、その中で下呂小学校に送られた人形で、ヘレンさんという人形です。この写真を見た時に、私はよく変わらなかったのですが、「トロイのヘレン」と書かれているのです。トロイ戦争の原因となったヘレンのことを当時の尋常小学校の先生が知っていて、そういう名前でも歓迎している写真が残っています。

戦争と「青い目の人形」「答礼人形」

各学校で歓迎された青い目の人形も、戦争が始まると同時に、敵国の人形という事で、飾られなくなりました。大きなキッカケとなったのは、「叩き壊せ青い目の人形」という新聞記事ではないかと思います（レジメ2ページ右上）。実は人形について直接文部省が壊すとか、内務省が壊すとか言ってないのです。いわゆる自粛と言うか、忖度と言うか、国の想いを受けて各地の人たちが壊していったわけです。先ほど申しました下呂小学校のヘレンさんは、当時の生徒さんがその様子を見ていたそうですが、若い青年教師が校舎の裏に、人形を持って行って、「鬼畜米兵」と言って叩き壊したそうです。

ところが、この中でも守られた青い目の人形も岐阜県には2体ございました。その一つが、八百津町和知小学校の「パッテロー」です。この写真（レジメ2ページ中）の左手前にいる方が、この「パッテロー」を守られた水谷先生です。人形が来た時は昭和2年ですが、水谷先生が学校で学んでいたのは実は大正時代なのです。大正時代のいわゆる大正自由教育を学んでいた彼は、人形というものは非常に大事にして、この子を日米交流の懸け橋にしなければいけないと思って、同僚と一緒に個人で写真を撮影しました。それで、彼は人形を壊すという声がある中で、人形を守らなければならないと理科室の標本棚の裏に蚊帳にくるんで隠しました。ところが、ふと気が付いて、蚊帳には金属の輪っかが付いているから、金属回収の時に見つけられたら、人形も見つかると思いました。だから、もう一度隠さなければと思って、宿直の夜に理科室に行って、今度は標本棚の床をあけて、その下に隠して釘で打ち付けたそうです。戦後、水谷先生は、まだその学校にいらっしゃったので、誰にいう事も無く、また人形を出して飾られました。自分が守ったという事は一切語らずにおられました。

もう1体は、「メリープランナー」という人形です。七宗町の上麻生小学校に送られた人形です。この人形も、戦後、生き延びていたんですね。ところが、学校校舎改築の時に、校庭に縄を張って、先生たちがいらぬものを捨てていました。すると、そこで遊んでいた少女に「このデコくれるに」（この人形あげるよ）と言って、その子に人形が渡されました。その子が棚橋充子さんという方です。少女は、家に人形を持って帰りました。こんな汚い人形を持って帰ったら、お母さんは怒るだろうと思って帰ったそうです。お母さんは、その人形をじっと見て、抱きしめたそうです。そして、人形は着物も無かったので、服も作ってくれました。彼女は結婚しても嫁ぎ先までその人形を持って行きました。ところで、何故あの時お母さんが、こんな人形要らないと言わずに抱きしめたのか、実は後々まで聞きそびれたそうです。推測してみると、このお母さんは、この人形を受け取った時、つまり昭和2年ですね、そこに児童として居たということです。だから、この捨てられた人形が、自分が見たあの青い目の人形と分かって、大事にしようと言って、今でもあるのだということです。

棚橋さんは、その後もずっと青い目の人形を大事にされていました。それが今年（2016年）の3月、上麻生小学校に人形を返されました。そこまでには色々ありました。学校という所は、その人形を大事にする人がいる間は良いのですが、その先生が居なくなると学校は変わってしまい、人形の事を忘れられてしまって、大事にされないのです。そのことを心配された訳です。七宗町の方からも、住民の方からも、人形を大事にしたいという声もあり、今年の3月に「メリープランナー」は、上麻生小学校に返されました。

その時に私もご一緒しましたが、ビックリしたことがありました。人形を生徒代表に渡そうとした時に、生徒代表が泣き崩れました。待ち焦がれていた子がやって帰って来てくれたということでした。それを見て、返してあげることになって良かった、これなら大事にしてくれるだろうと思いました。

「ミス岐阜」の里帰り

さて、「ミス岐阜」の話に戻ります。戦争が終わって、日本でもアメリカに行った答礼人形の存在が各地で認識されるようになりました。1993年には「ミス高知」、1994年に「ミス奈良」の里帰りがありました。そこで「ミス岐阜」も里帰りさせたいと思っていました。実は、ここで奇跡が起こったのです。1993年9月に、今日お越しいただいている夏目勝弘（現・答礼人形を里帰りさせる会事務局次長）さんがアメリカのクリーブランド市美術館で「ミス岐阜」を発見されたんです。その新聞を私は見て、ああ、「ミス岐阜」が居たんだと思いました。ところが、今度は夏目さんから私に電話が掛ってきました。夏目さんとは当時面識はありません。ちょうど私は岐阜の歴史教育者協議会事務局長をやっている、その関係で歴史の先生なら人形について知っているのではないかという事で問い合わせがあり、その話が私のところに回って来て、夏目さんと知り合いになりました。それで、里帰りをさせようという話になりました。

ところが、夏目さんと県の国際交流センターに行ったら、そんな話は民間でやって下さい、行政は関わりません、県も関わりませんという返事です。それなら民間でやろうという事で、動き始めました。1994年12月に岐阜市と姉妹都市のオハイオ州シンシナティ市に日本の方がいて、その方が岐阜に帰って来られたのを機会に、その方を通じて里帰りを依頼しようという話を進めて行きました。その方が、直接クリーブランド市美術館まで行っていただき、里帰りを実現することができました。美術館にしてみれば、自分のところの所蔵品は宝物なのですが、それを訳の分からない日本人が、返してくれと言ったり、しかも自分のところで修理したりするという事は、とんでもない事なのです。現物をそのまま保管することが美術館の仕事なのですが、それを勝手に自分たちの知らないところで修理をされてしまったら、美術品としての価値がなくなってしまいます。所蔵品としての価値がなくなってしまうということですが、それについても人形の吉徳さんの実績がありましたので、私どもの交渉で、ついに里帰りができました。

里帰りにあたって、とにかく資金がありません。だいたい予算的には400万円ぐらいかかります。岐阜市や岐阜県に色んな補助金があるのですが、そういうものを利用しながらも、県民で何とか1,000円募金で募金活動できないかと始めました。私たちがやったのは、絵葉書セットです。修理されていないボロボロの「ミス岐阜」の写真と、岐阜県にある青い目の人形の「パッテロー」と「メリープランナー」の写真を5枚セットにして、1セット1,000円で買って頂きました。これがどうなるか分からなかったのですが、特に女性団体の国際ソロプチミストの方々に大変協力して頂きました。一緒にやろうという方々が実行委員会にいて売りさばいてくれました。予算の半分以上は、この寄付でまかなう事が出来ました。

そして、いよいよ里帰りです。直接にアメリカにこちらから行って、お人形さんを抱えるようにして岐阜に連れてきた訳です。会場の岐阜高島屋に買い物に来られた方はみんな人形の方も見に来てくれた感じで、トータルすると 10 日間で 1 万人以上の方に見て頂いたのではないかと思います。成功したとっていいでしょう。

新しい人形交流

けれども、人形交流というのは、そのように人形をただ里帰りさせる一回だけのイベントで終わっては物足りない。そこで更に発展させる形で、「ミス岐阜の会」というのをその後に作ったわけです。ギューリック 3 世を岐阜にお迎えして交流したり、あるいは岐阜にある青い目の人形の「メリーブランナー」を、アメリカに里帰りさせて交流したりということもやりました。人と人の繋がりが、また新しい奇跡を生みます。「メリーブランナー」を持っていてくれた棚橋さんと私でアメリカに行きました。そこで交流した方が、「私が行った日本の学校に青い目の人形があったよ」と言われたのです。大山小学校ということで、調べてみましたが、その学校には今までに人形があるということを知らされていなかったのです。それで、日本に戻って、伊勢原市の大山小学校に、武田英子さん——青い目の人形の本を書かれている方です——と一緒に行ってきました。そして、そこで青い目の人形に会ったのです。ところが、それはいわゆる一般的なアメリカから送られた青い目の人形ではなくて、名古屋のノリタケの前身のモリムラが作ったモリムラドールという陶器製のお人形でした。それが大正時代にアメリカに輸出されて、それがまた日本に青い目の人形として逆輸入されたものだったのです。アメリカで青い目の人形を募集した時には、自宅にある人形で良いということだった訳で、そういう人形も混じったという事が分かりました。「ミス岐阜」の里帰りが端緒となって、そういう人形の発見にも一緒に同行させてもらうことができ、本当に良かったと思っています。

また、「ミス宮城」という人形も、これ自体は直接岐阜県と関わりはないのですが、実は大きく関わっていました。というのも、カンザス州に住んでいらっしゃる方が、「ミス宮城」をオークションで手に入れられたことが分かって、人形を宮城に里帰りさせました。ところが、その購入者の方が岐阜に行きたいと言いました。なぜ岐阜に行きたいと希望されたのかというと、その方のご主人が戦後直後、日本に進駐してきた GHQ の一員で、当時は岐阜に進駐軍の基地があり、そこに進駐されてきて、岐阜に住まわれていたのですね。その時の写真があり、その写真に写っていた建物が、今でも残っていることが分かって、その方に岐阜に来ていただいて、交流することができました。その後も、お人形さんを贈っていただいたりして、この方を通じた人形交流も進んでおります。

私は「友情人形全国交流センター」の人間ということになっていますが、センターといっても実態は私一人で動いています。所員も誰もいません。なぜかという、全国の人形交流に関わった方々が、「何か情報交流する場が欲しいね」という事で、「ミス長野」が里帰りした時に、長野県で集まった人たちの夜の一杯会の中で話が出て、「じゃあアンタがやれ」ということで、私が立ち上げました。今でもニューズレターなどをメール発信して、お互いの情報交流をしている団体です。これに関わるようになって全国の活動が大変良く分かってきました。いくつか紹介したいと思います。

長崎県では、「ミス長崎」が里帰りをした時に、大変に参加者が多くて随分な収益になった。じゃあ、そのお金をどうしようかということで、カンボジアに学校を作ろうという話になって、文具や絵本を送り続けています。その学校の名前ですが、答礼人形の「長崎瓊子」という名前にちなんで「タマコスクール」となりました。

「ミス香川」を里帰りさせた香川県では、毎月、会報を出して、きちんと例会をやって、旅行に行ったりして親睦を深めながらも新しい情報を共有することをやっています。宮城県には「みやぎ青い目の人形調査する会」があり、東北地方中心に人形の交流をやっていらっやいます。そのことを元にして、宮城の学校では、学校で歌をつくって演奏されているそうです。千葉県の「浦安親善人形の会」では、ディズニーワールドのあるフロリダ州オーランドとも交流をやってらっやいました。愛媛県では、友情人形交流が 88 年を迎えた（2015 年）という事で、日本中の青い目の人形とアメリカの答礼人形に、ピースキャップという、米寿の時にかぶる帽子を贈って、それをかぶせた写真を送って下さいと依頼する形で交流しています。滋賀県では、人形交流を取り上げたミュージカルをつくって、人形交流を進めています。

人形を中心にした交流の活動で、今年（2016 年）の「ミス静岡」の里帰りに大変感動した話があります。御前崎の小学校の先生が語られた話ですが、その学校では青い目のお人形さんを学校の評議委員にされているのです。学校評議委員というのは人間がやるのですが、学校について色々と外部から意見をいただく役職です。本来なら、お人形さんを評議委員にして何が出来るかということですよ。でも、それを教育委員会に申請したら OK が出ました。そこで、「人形ならこの課題についてどう考えるか」ということで、皆で人形の立場になったつもりでアイデアを出し合って話し合われるそうです。まさに今、明日（2016 年 7 月 10 日）は選挙です。人形なら、どんな投票をするだろうかと考えて、私たちは行動しなければならないと思いました。

人形交流の意義は

人形交流というのは、本当に人と人との交流のかたちです。それは先ほどのミュージカルテーマソングの歌詞にありました、人形の心の声を聞くということです。人形は物理的には語りませんけれども、必ず語っています。90 年間語り続けています。それを私たちは、聞く心の豊さを持ちたいなということです。

最後に、実は答礼人形については、長い年月の間に人形の取り違えがいくつかありましたので、岐阜の例だけを話をします。先ほど申し上げたように、アメリカで「ミス岐阜」が確認されたのですが、もともとの写真が残っていたので、「これはもともとのミス岐阜とは違う」という事が分かりました。では、もともとの「ミス岐阜」は、今どこにいるのだろうと探したら、実は「ミス徳島」としてアメリカにいました。「ミス徳島」は、ワシントン州のスポーケン市に保管されている人形です。そこで大変に大事にされています、では、現在「ミス岐阜」になっている人形はもともと何だったのだろうかと悩んでいたら、吉徳の青木さんのご指摘で、福井県おおい町の本郷小学校（福井県で唯一人形が残っている学校なのですが）に、「ミス福井」の写真が残されていました。そこに行って写真を見せてもらおうと、まさに振袖の着物と柄が一致したので、今の「ミス岐阜」は、もともとは「ミス福井」として太平洋を渡った人形だと確信しました。その話を聞いて、福井県の人形屋さんの方も、「何とか里帰りさせたいね」ということで、アメリカの「ミス岐阜」を「ミス福井」という形で、里帰りさせるように今取り組んでおられます。

人形は、表向き何も語りませんが、こうして調べていくと本当に様々な歴史なり、人形の持っている強さの様なものを私たちは学ぶことが出来ます。夏目勝弘さんが、「ミス愛知を見つきたい」とずっと私に言っていました。今回それが実現する運びとなり、私も本当に嬉しく思っています。夏目さんは、私の師匠ですので、来いと言われれば、どこへでも参ります。それで今日は来させていただきます。どうもありがとうございました。

「青い目の人形」と「ミス岐阜」人形交流の歴史

友情人形全国交流センター：魚次龍雄

1. 「青い目の人形」が岐阜にやってきた

シドニー・ルイス・ギュリック氏によって日本に贈られた「友情人形」12,739体のうち、岐阜県には235体の青い目の人形が贈られてきました。

1927(昭和2)年3月6,7日、岐阜県商品陳列所で歓迎展覧会が開かれ、県当局は「人形の使命を果たさせるため、これを機会に子どもたちにアメリカと日本とが仲良く握手して、世界平和のために貢献せねばならぬことを講話するよう」と指示しています。この展覧会は2日間の予定でしたが、あまりにも入場者が多く、入りきれないほどの歓迎ぶりだったので、8,9日も引き続き開かれることとなりました。

学校に配付された青い目の人形は、歓迎会が行われま
す。校長が人形の由来を説明し、名前を紹介しました。
そして、記念写真を撮り、その写真に子どもの手紙や作
品を添えて、アメリカにお礼として贈りました。



<前列右は明德小学校の女子児童>

2. 答礼人形「ミス岐阜」の誕生

「青い目の人形」には「決して返礼の心配はいりません」とギュリック氏のメッセージも添えられていましたが、日本児童親善会は「答礼人形」を贈ることを決めます。

人形は、全国の小学生から1銭ずつのお金を集めてつくることになり、岐阜県へは588円の割り当てがきました。募金は最終的におよそ244校から667円18銭集まりました。募金を寄せた県内の学校には、答礼人形「ミス岐阜」の写真が記念として贈られました。

答礼人形は、東京や京都の一流人形師に依頼して47道府県、6大都市、当時の植民地などの代表として58体がつくられました。「ミス岐阜」は、当時、市松人形製作者の中心的存在であった滝沢光龍齋によってつくられました。1体の標準価格およそ350円(人形150円、衣装150円、持ち物50円)という見積もりです。ちなみに教員の1ヶ月の給料が40~50円位であった時代なのでその豪華さもわかります。

【答礼人形「ミス岐阜」の送別】

青い目の人形がひな祭りにあわせて贈られたことに対して、答礼人形はクリスマスにあわせて贈られることとなりました。10月8日、岐阜市明德小学校で県内3万の少年少女を代表して人形送別会が行われました。「ミス岐阜」は、県内244校からの手紙やおみやげを持ってアメリカへ旅立って行きました。しかし、現在ではそれらの手紙などは残されていません。

アメリカに渡った答礼人形は大歓迎を受け、グループに分けられてアメリカ全土をくまなく回りました。その後、「ミス岐阜」はオハイオ州クリーブランド市図書館に保管されることになりました。けれど、巡回中に多くの人形が入れ替わってしまいました。

3, 戦争と「青い目の人形」「答礼人形」

【敵国の人形】

人形交流から10年余り、平和の願いもむなしく、1941(昭和16)年、日本はアメリカとも戦争を始めました。

戦争が激しくなるにつれ、日本以外の民族や文化は尊重されなくなり、「青い目の人形」もその災いを受けることとなります。1943(昭和18)年2月20日「毎日新聞」に“児童は叫ぶ 叩き壊せ『青い目の人形』”という記事があり、文部省の役人は「壊すなり、焼くなり、海へ棄てるなりすることには賛成である」と談話を載せています。

岐阜県内の人形もその中でほとんどが壊されてしまいました。しかし、八百津町和知小学校のパッテローと七宗町上麻生小学校のメリーブランナーは奇跡的に残されました。「人形に罪はない」とパッテローを隠した水谷正雄先生、棄てられようとしていたメリーブランナーに心を寄せてもらい受け大事にしてきた棚橋充子さん。わずか2体の「青い目の人形」ですが、戦争を拒み、平和を望む人形の心が今に伝わってきます。現在、全国で330体余りの青い目の人形が見つっていますが、その一つ一つに人形を思う歴史が残されているのです。



【「ミス岐阜」はどうなった】

アメリカでも戦争中は答礼人形を目に付くところに置くことはありませんでした。「ミス岐阜」も、クリーブランド市図書館に贈られたと記録に残っていますが、行方がわからなくなっていました。しかし、1993年クリーブランド市美術館の倉庫に眠っていることが、愛知県の夏目勝弘氏によってようやく明らかになりました。

ノースカロライナ州に贈られた「ミス香川」は戦争中にもかかわらず飾られ続けました。人形の

そばには「われわれは日本の侵略阻止を決意しているが、日本人すべてを絶滅させようとは考えていない。平和と善意、そして人間同士が自由に生きることの信念を捨ててはならない。無情な支配者の手の中にある日本人々にもこのような善意がある。かつて日米の子どもたちを通じて交換されたこの人形は、それを証明するものである」と掲げられていたのです。

4, 「ミス岐阜」の里帰り

戦争は終わりましたが、「青い目の人形」のことは人びとから忘れられていました。1973(昭和48)年、NHKが群馬県に残されていた「青い目の人形」について『人形使節メリー』と題して放送しました。これをきっかけに全国で次々と「青い目の人形」が確認されました。答礼人形も1974(昭和49)年「ミス広島」が日本で修復されてから、次々と里帰りしてきました。1993年には「ミス高知」、1994年には「ミス奈良」が里帰りして、アメリカから見つかったばかりの「ミス岐阜」も里帰りさせようという機運が高まってきました。

1994年「『ミス岐阜』里帰り実行委員会」を結成して多くの団体に参加を呼びかけました。岐阜県歴史教育者協議会が中心となり、窓口には岐阜県日米協会、岐阜県、岐阜市からの協力を得ながらも、里帰り資金は1銭募金になぞらえて県民からの1000円募金に取り組みました。

「ミス岐阜」や「青い目の人形」などの写真5枚で絵葉書セットを作って、これを1000円で買ってもらって基金としました。国際ソロプチミスト・岐阜や岐阜ゾンタクラブ、岐阜節句人形会や商工会議所などからは組織的に協力していただき、また、県民からも多くの振込金が寄せられました。

岐阜県民の募金で1995年5月に里帰りした「ミス岐阜」は、東京の人形店「吉徳」によってきれいに修復されました。この年の9月、岐阜高島屋で日米人形交流展を開催し、連日2000人を超える見学者でにぎわいました。その後「ミス岐阜」は新しい妹人形「あゆ」ちゃんと共に再びクリーブランド市美術館に旅立っていったのです。

5, 新しい人形交流

「ミス岐阜」の里帰り成功を受けて、人形交流の活動をさらにすすめようと、実行委員会を「ミス岐阜の会」に発展させました。

【ギュリック3世と交流】

ギュリック氏の孫のギュリック三世は、新しい友情の人形をつくって、日本に贈られる活動を始められました。パッテローがいる和知小学校に「ダイアン」が、「ミス岐阜」を送り出した明德小学校に「マリリン」を贈られました。2006年にはメリーブランナーがいた上麻生小学校を訪問して「マリアン」を贈られました。

メリーブランナーは、2005年に78年ぶりにアメリカに里帰りして、ワシントン州スポークン市で「ミス徳島」と、アイダホ州ボイジー市で「ミス奈良」といっしょに地元の子もたちと交流しました。

【「ミス宮城」との交流】

2003年5月、カンザス州からコルベットさんが「ミス宮城」を携えて来日されました。アンティークショップを経営されていたコルベットさんは、偶然見つけた「ミス宮城」を購入され、宮城県に人形と共に訪れて交流されました。

コルベットさんは、終戦直後、軍人であった夫と岐阜に滞在していたというので、宮城での行事を終えた後、岐阜を訪問されました。知事、市長を表敬訪問、和知小・明德小で子どもたちとの交流を行い、明德小には、新しい人形「スーザン・ギブソン」が贈られました。

その後もコルベットさんから2体のアンティーク人形が「ミス岐阜の会」に届けられ、1体は岐阜市芽含幼稚園に、もう1体は各務原市の特別養護老人ホームに贈られました。

【全国各地の人形交流】

答礼人形の里帰りや新しい友情人形の贈呈を通して、全国で人形交流が進められています。長崎では「長崎瓊子」の里帰りをきっかけに、平和の取り組みを拡大して、カンボジアに「タマコスクール」という学校を建て、今も絵本や文具を送り続けています。

香川県親善人形の会は、人形の歴史を地域の活動や学校に紹介したり、会員の交流などをしたりしています。

宮城では、「みやぎ青い目の人形調査する会」が地道に続けており、今でも青い目の人形が発見されています。

千葉県浦安親善人形の会は、同じディズニーランドがあるオーランドの小学校に、自分たちで作った人形を送って交流されていました。



＜明德小学校で子どもたちと交流＞

アメリカ・ワシントン州スポーケン市では、武庫川女子大学アメリカ分校で、「ミス徳島」のある地元の小学生に「友情の人形」の話をしたり日本人形を贈ったりして交流していました。

岐阜でも「ミス岐阜の会」が活動しています。棚橋充子さんが紙芝居を作られて、各地で演じられていました。なお、棚橋さんは、2016年3月、50年余り大事に守ってこられたメリーブランナーを元の上麻生小学校に贈られました。メリーブランナーを迎える式典には町長、教育長なども列席され、子どもたちの大歓迎を受けました。



他にも、全国各地で人形交流を続けておられますが、全国の人形交流の情報をまとめるセンターとして「友情の人形全国交流センター」を作って、ニュースレターを発信しています。

6、人形交流の意義は

1927(昭和2)年に贈られた人形が、なぜ人々の心を引き付けるのでしょうか。それは、人形が平和の願いを持ち、平和を訴えた歴史があるからです。人形交流の歴史はそのまま平和の歴史となります。人形は子どもたちのもの、未来を生きる子どもたちに平和を託す人形。これを伝えていくのは大人の使命かもしれません。

日本では、人形に魂が宿っているものと考えます。ですからゴミとして捨てることができず、「人形供養」をして送るのです。人形を手にする、子どもだけでなく大人も笑顔になります。それが人形の力なのです。人形は何も語りませんが、人形を通して人々が語るのです。これからも、人形を通じて世界の国々の子どもたちが仲良くなることを願っています。

7、人形の取り違えをどう考えるか

クリーブランド市で見つけた「ミス岐阜」は台座に「岐阜県」と書かれていたので「ミス岐阜」と確認されましたが、元々の「ミス岐阜」ではないとわかっていました。垂井町表佐小学校に残された写真と違っていたのです。元々の「ミス岐阜」は、現在の「ミス徳島」であることが着物の柄からわかりました。

では、現在の「ミス岐阜」はどこの県の人形だったのでしょうか。2012年4月、福井県おおい町の本郷小学校に残されている古い写真の「ミス福井」が、現在の「ミス岐阜」と同じ着物であることから、元々の「ミス福井」が現在の「ミス岐阜」だということがわかりました。しかし、ユタ州ソルトレイク市に贈られたはずの「ミス福井」の行方は、まだわかりません。



元「ミス福井」

現「ミス岐阜」

元「ミス岐阜」

現「ミス徳島」